

2021年  
官と民のコレクティブで「公共創造」を行うためのプラットフォーム『一般社団法人次の一万年クラブ』を、共同設立。

2020年  
長野八ヶ岳に、縄文一万年の叡智をアップデートする『次の一万年ラボラトリー』を開設。

2019年  
日本橋の郷土資料館『日本橋歴史アーカイブス』(監修 江戸東京博物館 名誉館長 竹内誠)を中央区立常盤小学校別館ギャラリーに常設開館。  
(企画・制作・実施)

日本博 In 日本橋 基本企画策定

2018年  
伊勢外宮地区エリアビジョン策定(株式会社伊勢まちづくり会社)

2017年  
EDO FES 江戸芸術文化祭(内閣官房Beyond 2020 認証企画)  
(企画・制作・実施)

2016年  
日本橋地域ルネッサンス 100年計画委員会 2020委員就任  
(日本橋地元組織の東京オリンピック・パラリンピック準備委員)  
EDOFES in べつたら市 江戸芸術文化祭(企画・制作・実施)

2015-2016年  
三井不動産 日本橋再生計画「グレーター日本橋プロジェクト」  
エリアコンセプト策定  
(昭和通りを越えた、旧日本橋区約240ヘクタール対象)

2015年  
日本橋大伝馬町に、非営利のアートセンター  
NICA Nihonbashi Institute of contemporary arts をオープンし、  
チーフディレクターとなる

2014年  
江戸の市を復活「日本橋くされ市」(日本橋大伝馬町恵比寿通り  
路上封鎖)を制作・実施。約3000人を動員。

中央区の水辺×2020オリンピック会場を巡る水上ラウンジ船による  
リサーチクルーズ開催

2013年  
日本橋大伝馬町にある約750平米のビルをリノベーションし、  
新たなパブリックの実験場『PUBLICUS x Nihonbashi』をプロデュース。

2012年  
英国ロンドンにて、国立ロンドン芸術大学3カレッジ  
学長クリス・ウェインライト主催による『Niino's Night(ニイノズナイト)』  
開催。最新のプロポーザルプランのプレゼンテーションを行う。

2011年  
地域密着型のアート・クリエイティブ拠点『Creative Hub 131』  
(経済産業省 CREATIVE TOKYO 構想賛同施設)を  
日本橋大伝馬町にオープン。

2010年  
中国上海にて、上海万博彫刻公園プロジェクト日本プログラムに参加。

2009年  
オリンピックプロポーザル案『世界同時共鳴プロジェクト』を、  
東京青山の国連大学ビルにてスタートさせる。

2008年  
六本木の住宅展示場を使ったアート展『The house』にて、  
展覧会を共同キュレーション。約2600人を動員。

2007年  
2016年東京オリンピック開会式・閉会式案を、石原元東京都知事や、  
オリンピック基本構想懇談会委員へ、プレゼンテーション。

2006年  
『東京発、未来を面白くする100人』に選ばれる。  
(Web マガジン Tokyo Source)  
※後に書籍化「これから面白くする31人に会いに行く。」(ピエブックス)

2005年  
初個展『World is not hell, but sometimes completely hell itself』  
を、CET05(Central East Tokyo)に参加して、発表。

2004年  
実質的なアーティストとしてのデビュー作となるプロジェクト  
『高野氏にまつわる再構築プロジェクト』を発表。

クリエイティブの実験場『内田ビルコンプレックス』をOPEN。

2021年 一般社団法人次の一万年クラブ キックオフイベント (モデレーター)	三井不動産ビルディング事業企画部新年度セミナー ミッドタウン、六本木(講演)
2020年 次の一万年ラボラトリー キックオフイベント (モデレーター)	「白洲信哉さんに聞いてみる、そもそも日本って何ですか?」 NICA、日本橋(企画/モデレーター)
Creative Hub131 9周年祭 日本橋(モデレーター)	「土曜会」日比谷図書館、日比谷(講演)
2019年 Creative Hub131 8周年祭 日本橋(モデレーター)	「日本橋セミナー」伊場仙ビル、日本橋(講演)
2018年 Creative Hub131 7周年祭 日本橋(モデレーター)	2014年 「2020 レガシーを考える」経済産業省、霞ヶ関(プレゼンテーション)
2017年 EDO FES 江戸芸術文化祭「日本橋体験ワークショップ」 「日本橋まち歩きツアー」「日本橋街トーク」(モデレーター)	「震災後3年を前にアート、アーティストが出来る事」 カナダ大使館、青山(出演)
Little Japan プレオープン企画、浅草橋(トークイベント出演)	「中央区をもっとクリエイティブシティに」〜キックオフラウンドトーク〜 太下義之、新野圭二郎、立田一幸、岡田智博 PUBLIBUS×Nihonbashi 日本橋(出演)
2016年 EDO FES in べったら市 江戸芸術文化祭 「江戸クラフト体験ワークショップ」「日本橋街ツアーガイド」 「籠に乗って江戸の街並みを体験」(モデレーター)	第3回共創プラットフォーム研究会 東泉一郎×新野圭二郎×江渡浩一郎×木原民雄 PUBLIBUS×Nihonbashi 日本橋(出演)
学習院女子大学教育学部国際文化交流学部 清水敏男研究室 (日本橋街歩き)	2013年 「アートと笑いの境界線!」ロフトプラスワン、新宿(出演) 土屋敏男、倉本美津留、会田誠、大月壮、菅原そうた、 鈴木康弘、新野圭二郎、片桐仁、園子温
早稲田大学教育学部大学院若林幹夫研究室(日本橋街歩き)	「渋谷地下水脈」神宮前通り公園、渋谷(パネリスト出演) リンダ・ウィリアムズ、長谷部健、新野圭二郎、岩本唯史
早稲田大学教育学部大学院若林幹夫研究室(講義)	「アサゲニホンバシ」Wired café news、日本橋(出演)
「伊勢の価値を世界の人々にどう伝えていくか」講演会 伊勢商工会議所、伊勢(講演)	「OuUNPo」トークセッション PUBLICUS x NihonbashiBIF、日本橋(出演)
三井不動産ビルディング事業企画部 講演会 PUBLICUS x Nihonbashi、日本橋(講演)	「Tokyo 2020 オープンセッション Over40トークセッション編」 葛屋代官山 DAIKANNYAMA T-SITE、代官山(ゲスト出演)
「歴史的町屋」リノベーションの壺、伊勢河崎商人館(講演)	2012年 『Niino's Night』Hermitage Community Mooring ロンドン、英国(プレゼンテーション)
2015年 「三重の"宝"トーク 農家さんと海女さんに聞く 暮らしの中で本当に大切にしていること」 Vol.1.2 三重テラス、日本橋(モデレーター)	『Niino's Night』Creative Hub 131 1周年記念 Creative Hub 131、日本橋(プレゼンテーション)
日本橋倶楽部「月例親睦会」卓話: 日本をリノベーションする 〜東京オリンピックに向けたまち再生の試み〜 日本橋(講演)	シンポジウム出演 「Central East Tokyo(CET)を振り返る。そしてNEXT」 佐藤直樹、清水義次、シミズヨシユキ、新野圭二郎、近藤ヒデノリ、東泉一 郎、嘉藤笑子 村上織商ビル、日本橋(パネリスト出演)

「青い森のメディアアートワークショップ東京報告会」  
CreativeHub 131、日本橋(出演)

2011年

「TOKYO DESIGNERS WEEK2011」コンテナ展  
明治神宮外苑絵画館前(会場構成)

「浅草ジャンクション Vol.2」アサヒ・アートスクエア、浅草(出演)  
公開制作「ハイブリッドアートラボ」  
府中市美術館、府中(会場構成)

「Tokyo art star の会 Vol.2」3331Arts Chiyoda、外神田(講演)

2010年

「12.23 1day exhibition」東京藝術大学美術学部 岩間賢ゼミ  
村上ビル、日本橋(オープンディスカッション ゲストレビュアー)

「ワールド・ハーモナイズ・プロジェクト」  
Office339、上海(ワークショップ)

2009年

首都大学東京システムデザイン学部  
インダストリアルアートコース 八王子(ゲスト講師)

「湯道(YUDO)」発足記念トークショー」  
TOKYO CULTURE CULTURE(出演)  
中村ケンゴ、近藤ヒデノリ、米田智彦、新野圭二郎他

2008年

日本大学 生物資源科学部 糸長研究室、藤沢(講演)

『これから面白くしそうな31人な会に行った。』  
刊行記念トークショー 青山ブックセンター本店  
近藤ヒデノリ×米田智彦×内沼晋太郎×新野圭二郎

主な企画

NICA: Nihonbashi institute of contemporary arts

(新野と企画委員キュレーター岡田智博、嘉藤笑子2名による企画)

2021年

『artdemo.20』

出演: 猪子寿之(チームラボ代表)×岡田裕子(現代美術家)×渡邊英徳(東京大学大学院教授・メディアアーティスト)×タイチ ナオキ(Tasko代表)×夜住アンナ(株式会社BAKERU・ホラープロデューサー)×フクサワ タカユキ(エコーワークス代表・シュールライフクリエイター)×富永勇亮(whatever 代表 プロデューサー)×藤岡 定(anno lab代表・メディアアーティスト)×岡田智博×林信行(ジャーナリスト)

東京造形大学写真専門領域学部卒業展・大学院修了展卒業展

2019年

『光のジャンクション 記憶とアートを繋ぐ』東京造形大学写真専攻領域

国際展「Do you love me?」展

2018年

第1回国際パフォーマンス・アートフェスティバルシンポジウム

国際展「Multi Layered Surfaces」展

2017年

三者視点!「ドイツ芸術祭: ミュンスター彫刻祭&ドクメンタ14」

2016年

スクーリング 国立ロンドン芸術大学特別公開コース

<Introduction to Interior and Spatial Design>

国立ロンドン芸術大学3カレッジ学長 クリス・ウェインライト

We Are All Stars Exhibition

国際現代写真展 DIALOGUES IV “Distant Affinity”

対話4「遠隔関係」ダナ・フリッツ×高田洋三

新聞家「帰る」

オーストラコマンドー公演「息が苦しくなるほどの跳ぶ」

2015年

ボストン在住パフォーマンスアーティスト

Alice Vogler&Vela Phelan を囲んで

中村土川 作品展 | EXHIBITION Tosen NAKAMURA

NICA企画「白洲信哉さんに聞いてみる、そもそも日本って何ですか?」

DIALOGUES 展-ダブルス×3連続国際展-

第3回展「はしのまち」サム・ストッカー×近藤恵介

岡崎藝術座/+51 アビアシオン,サンボルハ

DIALOGUES 展-ダブルス×3連続国際展-

第2回展「かわのまち」ジョン・ササキ×森田浩彰

DIALOGUES 展-ダブルス×3連続国際展-

第1回展「ひかりのまち」シャーロット・マクグワン=グリフィン×栗山斉

2014年

落合陽一レビュー展示『魔法の世紀』

Yoichi OCHIAI - Preview “The Century of Electronic Magic”

NICAプレオープニングクロスセッション

- WE ARE THE FUTURE - / 落合陽一×猪子寿之×岡田智博

NICAプレオープニングクロスセッション / 落合陽一×宇野常寛

- 2020 を創造的に迎えるために日本橋で考える -

富井大裕展『繊維街 日本橋』

2021年

Yahoo News 日本橋でトーク企画「アートデモ」  
「アート思考とイノベーション」をテーマに

WEB 野村総合研究所未来創発センター「コロナ危機を乗り越えレジリエントなニューノーマル」に向けて～新型コロナウイルス三位一体ショックから再興への処方箋(6)の実践～」

Yahoo News 日本橋歴史アーカイブスが街の老舗旦那衆の取材映像をウェブ公開

goo ニュース日本橋歴史アーカイブスが街の老舗旦那衆の取材映像をウェブ公開

dメニュー ニュース日本橋歴史アーカイブスが街の老舗旦那衆の取材映像をウェブ公開

2020年

Yahoo News 「日本橋大伝馬町アート拠点ビルで9周年イベント草創期のクリエイターら結集

Yahoo News 「日本橋歴史アーカイブス再開」街の歴史・文化を記録し情報発信拠点を目指す

「FINDERS RADIO」第3回「粋と野暮の間で。日本橋を起点に始まった街、古くて新しい東京論」(出演)

常盤学校校友会会報11号「完成した常盤別館1階に日本橋歴史アーカイブスOPEN」

まちひとサイト「常盤小学校別館1階の日本橋歴史アーカイブスで、日本橋を語り合おうか!」(インタビュー出演)

週間ビル経営「日本橋エリアの過去・現在・未来」(インタビュー掲載)

2019年

東海中学校・高等学校東京同窓会(インタビュー掲載)

Yahoo News 「日本橋歴史アーカイブス 街の歴史、文化を保存」

Yahoo News 「日本橋大伝馬町のアート拠点が8周年 地元クリエイターがプレゼン交流会」

中央区観光協会特派員ブログ

2018年

首相官邸ホームページ「外国人観光客、障害者に対する新たなサポート運動推進調査報告書」日本橋アンバサダープロジェクトについて

Yahoo News 「日本橋で観光案内なアンバサダー要請講座 訪日観光客向けに学生や企業人らが街ガイド」

Yahoo News 「日本橋大伝馬町のアートスペースが7周年 作家やクリエイターがおもてなし」

2017年

エキサイトニュース「EDO-FES 江戸芸術文化祭」開催

週間ホテルレストラン別冊 日本版IRの全貌!(鼎談インタビュー)

日本橋エリアを盛り上げる強者たちの挑戦(4)  
BETTRASTAND日本橋(インタビュー)

Yahoo News 「日本橋で観光アンバサダー養成講座」

Yahoo News 「日本橋大伝馬町のリノベーションビルが6周年 多ジャンルのアーティスト集う」

2016年

経済産業省まちづくり情報サイト「街元気」コラム・事例紹介(出演)

東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科熊倉純子研究室 等麻里子卒業論文「クリエイティブ産業のためのオルタナティブ・オフィスについて」 CreativeHub131 を事例にー

Yahoo News 「日本橋くされ市」

Time Out Tokyo 『Creative Hub 131』

まちひとサイト「Edo Fes 江戸芸術文化祭 in べつたら市」  
(インタビュー出演)

Greater日本橋マガジン

マガジンハウス 青野賢一(ビームス創造研究所)×本間貴裕  
(Backbacker's Japan)×新野圭二郎(鼎談)

J-WAVE 「クリス智子 atelier nova」(録音出演)

2015年 Yahoo News 「NICA Ground Open」

「商店建築」(インタビュー出演)

WEB 「grenz対談」

寺井元一(まちづくりクリエイティブ)×新野圭二郎(出演)

Realtokyo 横浜/東京カルチャーレポート「NICA」

Yahoo News 大伝馬町に新スペース「NICA-アート発信の拠点を地域に」

2014年BSフジTV「家族の食卓」  
第189回「日本橋 みんなの食堂」(30分番組特集)

Yahoo News 大伝馬町で「日本橋くされ市」-路上封鎖し地元40店が出店

まちひとサイト「老舗+マンション新住民、5月25日(日)えびす通りの「日本橋くされ市」は、'クサレ緑日'新しい街暮らし」(インタビュー出演)

2013年

TVNHK「東京カワイイ TV」(出演)

ラジオ J-WAVE「SUNDAY LOHAS」(出演)

雑誌「TRUNATT」インタビュー(2013年 vol.1 10月発行)

CVTV「粋、日本橋老舗あるき」(出演)

2012年

TVNHK WORLD「TOKYO EYE」(出演)

雑誌「ソトコト」(2013年1月号)(出演)

新聞「ニッキン」(インタビュー掲載)

雑誌 週刊朝日 2012年1月27号(取材)

雑誌「広告」やさしい革命(Vol.388)(作品掲載)

2011年

雑誌「MACPEOPLE」(インタビュー掲載)

雑誌「LIVES」(11月号)(取材)

雑誌「WWD JAPAN」(Vol.1647)(取材)

ラジオ J-WAVE「TOKYO MORNIGRADIO」(取材)

ラジオ FM84.4「東京ウェッサイ」(出演)

TVNHK「特報首都圏」出演 2010年 雑誌「GQ」(12月号)(出演)

雑誌「メトロミニッツ」(NO.96)(出演)

Yahoo News「大伝馬町にアートスペース「Creative Hub131」  
-アーティストらの活動拠点に-

2009年

WEB「TOKYO SOURCE」(コラム)

WEB「WEB ダカーボ」(コラム)

2008年

雑誌「ARTIT」(NO.21)

「この5年で最も注目したアジア=パシフィックの作家」(掲載)

書籍「これからを面白くしそうな31人に会いに行った。」(ピエブックス)  
(掲載)

ラジオ NIKEEラジオ「東京文化物語」(出演)

2007年

新聞「東京新聞朝刊」(11/24日付)

新聞「朝日新聞朝刊」(11/25日付)

TVFNN「スーパーニュース」(インタビュー出演)

TVFNN「めざましテレビ」(取材)

WEB「TOKYO ART BEAT」Central East Tokyo: The Making

雑誌「ARTIT」(NO.17) CENTRALEAST TOKYO 06

雑誌「SENKEN H」(VOL.7)

TVMXTV「TOKYO BOY」(出演)

雑誌「美術手帳」(2月号)

雑誌「SMART」(2月号)

雑誌 英国「FREEZ」(ISUUE 104)テキスト DAN FOX

WEB「横浜経済新聞」ヘッドラインニュース

2006年

雑誌「メトロミニッツ」(NO.49)(インタビュー)

WEB TOKYO SOURCE「東京発、未来を面白くする100人」(インタビュー)

TVMXTV「新東京物語」(出演)

WEB「Art Scape」展覧会レビュー(美術評論家 福住廉)

雑誌「1010」(インタビュー)

2005年

WEB「Real Tokyo」東京編集長日記 馬場正尊 023(建築家 馬場正尊)

雑誌「メトロ ミニッツ」(NO.42)(インタビュー)

2004年

雑誌「美術手帳」(12月号)(展覧会レビュー)

雑誌「ARTZONE 2004-2005」

雑誌「ARTIT」(NO.5)「Index#1」展

21世紀になり規定された新たな地層年代「人新世」に代表されるように、人間が地球環境に及ぼした取り返しのつかない汚染や気候変動が近年深刻な問題になっていた。そのような中、2020年の新型コロナウイルスによる感染症は、地球規模でのポストパンデミックの時代に私たちを突入させた。それによって、すでに現れていた近代的なシステムのほつれが広がり、人間中心主義的な世界観が問い直されると同時に、社会における非対称性(経済、人種、ジェンダーなど)がことごとく露わになった。世界はまさに、大きな転換の只中にある。そのような時代において、芸術、しかも未来に向けた新たな芸術の可能性を検討し実践していくことが必要になっている。

今年、ヨーゼフ・ボイスの生誕100年を迎える。ボイスは、「社会彫刻」「人は誰もが芸術家である」「芸術＝資本」などに代表される言葉を通して、20世紀において芸術を社会へと拡張し、人々の創造性を開いていく活動を先見的に行っていた。それから35年。科学技術が高度に発達・普及した21世紀において、芸術を「公共創造」のための資本として再定義し、社会の諸分野や人々の精神、そして自然環境をつなぎ相互循環させていくことが重要となるだろう。日本においては、明治以降の近代化で排除されてきた文化や精神性をあらためて見直すことで、世界のどこにもないビジョンの発信が待たれている。

(現在キュレーター四方幸子と企画中のリサーチ&トークシリーズのメモより)

## 01『次の一万年ラボラトリー』エントランス写真 (2021)

長野県茅野市の八ヶ岳山麓の約1500坪の森の中にある、縄文一万年の叡智を次世代にアップデートするためのラボラトリー。縄文時代の一万年にも及ぶ平和や持続可能性の叡智を基に、様々な社会システムを更新していくためのラボラトリーを設立。芸術、科学、歴史、宗教、経済など分野を超えて集まった探求者たちが、自然の叡智に溢れた土地の声に耳を傾け、時間や空間を超えてエネルギーと交信し、感得したものを語り共有していく。そのプロセスから、「公共創造」が生まれていくことだろう。

2020年11月にOPEN。キックオフの5つのセッションが行われて、本年2月の一般社団法人次の一万年クラブの創立に繋がった。2021年は、1月より定期的にワークショップを開催、企業向けのラボラトリープログラムも準備中。NSTUDIO,Inc代表として企画・制作・実施。

ロゴデザインは東泉一郎。(写真 高木俊幸)

## 02『次の一万年ラボラトリー』内部写真 (2020)

写真左の壁には、2020年11月28日29日のセッションで使われたモミの木型のメモに参加者のアイデアが書かれたもの。古い山小屋をリノベーションして活用。(写真 高木俊幸)

## 03『森の中の対話場』敷地写真と作業風景 (2021)

現在進行中の長野県茅野市の八ヶ岳山麓の標高1600m、約1500坪の森の中に敷地はある。約7.5m×2.3m、0.9mmのチタンの無垢の板を磨いた一枚ものの鏡を、阿弥陀岳水系の柳川により何十万年から何万年かけて侵食されたと思われる磐座(現在調査中)の上に設置し、人間と自然との対話をコンセプトにした、現代の聖地を創るプロジェクト。諏訪地方に長い間伝承されてきた「自然の精霊」とその存在を現してきた祠。自然の中に溶け込んだインビジブルでまた光を反射をする鏡を活用し「自然の精霊」を現代的に表現する事を、またそれが磐座と統合することで新たな時代の世界観の象徴となることを試みる。本年21年秋に完成予定。

NSTUDIO,Inc代表として制作。(写真 高木俊幸)

## 04『森の中の対話場』模型写真1 (2021)

そそり立つ磐座の上に、約7.5m×2.3m、0.9mmの一枚ものの鏡を設置する。現在計画中のプラン模型。(写真 高木俊幸)

## 05『森の中の対話場』模型写真2 (2021)

太陽の光を受けて反射する鏡。現在計画中のプラン模型。(写真 高木俊幸)

## 06『日本橋歴史アーカイブス』オンラインサイト (2021)

『日本橋歴史アーカイブス』のオンライン化は、2020年春の新型コロナウイルス対応の緊急事態宣言で閉館となった際に、今後も閉館する可能性を考えて準備を進め、2021年1月の緊急事態宣言中の閉館中に、オンラインサイトを公開した。オンライン化の2つの特徴は、一つ目は「日本橋インタビューアーカイブス」(以下の方々)がいつでも見られるようになったこと。二つ目は、展示空間の「バーチャルツアー」が体験出来る事。展示空間を3Dスキャンカメラで撮影して、空間を俯瞰して確認出来たり、空間の中に入り込めるバーチャルツアーは、マナーポートを使って制作。こちら

のURLからどなたでもアクセスできる。(www.e-archives.org)

日本橋の老舗の旦那衆を中心とした口伝の記録

『日本橋インタビューアーカイブス』がいつでも見ることが出来る。

01 細田 安兵衛 株式会社榮太樓總本舗 相談役 五代目

02 奥田 宣男 てん茂 三代目

03 橋本 敬 株式会社日本橋とよだ 代表取締役会長 四代目

04 岡田 親幸 千葉商科大学商経学部元教授

05 湧井 恭行 株式会社大江戸 代表取締役会長 九代目

06 吉田 誠男 株式会社伊場仙 取締役社長 十四代目 当主

07 渡邊 秀次 有限会社相鴨鳥 安代表取締役 五代目 店主

08 竹内 喜美子 有限会社魚十 代表取締役 十三代目 当主

09 小澤 尚 株式会社小澤設計 計画室 計画設計アドバイザー

10 齋藤 優 常盤小学校 第二十二代 校長

11 高津 伊兵衛 株式会社にんべん 代表取締役社長 十三代 当主

12 近藤 紀代子 日本橋三越本店 女将 (近日公開)

13 中村 胤雄 名橋「日本橋」保存会 会長 (近日公開)

14 岩砂 弘道 三井不動産株式会社 代表取締役 会長 (近日公開)

15 佐久間 一郎 繁乃鮎 三代目 (近日公開)

## 07『日本橋歴史アーカイブス』オンラインサイト (2021)

ヴァーチャルツアーの1カット。

## 08『日本橋歴史アーカイブス』

中央区立常盤小学校別館ギャラリー全体風景 (2020)

日本橋歴史アーカイブスは、日本橋の郷土資料館としての常設の展示スペース。初等教育に活用することを第一義に中央区立常盤小学校別館ギャラリーに、2019年11月にOPEN。監修は、江戸東京博物館名誉館長 竹内誠が担当。東京都中央区日本橋にある全公立小学校の郷土教育に活用する予定で、一般の方にも開かれた場所になっている。文部科学省が推進する郷土教育の先進事例となる事を目指し、全国の子供達とその土地の歴史を知って学ぶ事で、個々にアイデンティティを育てていく事の出来る機会を創出したい。日本橋の老舗の旦那衆を中心とした口伝の記録「日本橋インタビューアーカイブス」のインタビューーに、ジャーナリスト 玉重 知子、デザイナーに 加藤 亮介(加藤 亮介 デザイン事務所)を起用。一般社団法人日本橋アーカイブス 代表理事として企画・制作・実施。

主催：常盤学校校友会

監修：江戸東京博物館 名誉館長 竹内誠

制作：一般社団法人日本橋アーカイブス

協力：ベルリン東洋美術館、中村地図研究所、日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会、凸版印刷株式会社(写真 高木俊幸)

## 09『日本橋歴史アーカイブス』全体風景(ディテール)日銀通り側。(2020)

道を行く人々にも興味を持って頂ける様に、道路側にもモニターを設置。(写真 高木俊幸)

## 10『日本橋歴史アーカイブス』を覗く常盤小学校の子供たち。(2020)

中央区立常盤小学校の6年生と4年生の授業で活用が始まっている。  
(写真 高木俊幸)

#### 11『日本橋歴史アーカイブス』内部風景。(2020)

床から壁にかけての地図(江戸之下町復元図 中村静夫作成)を使って説明する日本橋の旦那衆。(写真 高木俊幸)

#### 12『日本博in日本橋』開会記念式典の集合写真。(2019)

日本博とは、文化庁による2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する文化芸術祭等のプロジェクトを日本全国で体系的に展開するもの。『日本博in日本橋』として、文化庁と日本芸術文化振興会、日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会の主催で、日本橋の老舗の体験プログラムを中心にを実行。日本橋地域が独自に育んだ江戸からの伝統を、体験型のプログラムを作成する事により多くの方々に体験の機会を創出する事を目指した。

日本芸術文化振興会との窓口を担当、基本企画を策定。

日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会日本博準備委員として実施。

主催：日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会、文化庁、

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：日本橋料理飲食業組合、三井記念美術館、株式会社伊場仙

後援：中央区

開会記念式典では、宮田亮平文化庁長官、河村潤子日本芸術文化振興会理事長、岡田直樹・内閣官房副長官、山本泰人中央区長、歌舞伎役者松本幸四郎、宝生英和宝生流宗家、大倉源次郎大倉流小鼓方宗家などが御列席し開催された。(写真 一般社団法人日本橋アーカイブス)

#### 13『日本博in日本橋』日本橋三越本店にて、三越スタッフによる店内ガイドツアーの様子。(2019)

『日本博in日本橋』日本橋の重要文化財めぐり。日本橋の5つの重要文化財を巡るツアー。(写真 一般社団法人日本橋アーカイブス)

#### 14『Creative Hub 131』エントランス風景。(2011)

『Creative Hub 131』(クリエイティブハブイチサンイチ)は、日本橋大伝馬町にある地上6F、地下1Fの約330平米の1棟ビルをリノベーションしたアート・クリエイティブ拠点(経済産業省 CREATIVE TOKYO 賛同施設)。

Creative Hub 131の由来は、異ジャンルのクリエイター達が集まるネットワークの拠点であるという意味のHub(ハブ)と、日本橋大伝馬町13-1の番地から、それを名称にした。近年の地域のトレンドにもなっている、まちの社員食堂。その社員食堂をパブリック(まち)に開く形式は、3.11の東日本大震災直後の2011年7月より行なっている。この食堂のHub機能により様々な価値の創出が行われたが、一例をあげると、国土交通省現役官僚より、「国土交通省が現在実施している水辺の規制緩和の活動(ミズベリング)は、Creative Hub 131から始まったと言っても過言ではない」とのお話もあった。水辺の活動の第一人者達と国土交通省官僚とのマッチングの場となった。ちなみに、2004年よりCreative Hub 131近くの前ビルをリノベーシ

ョンしたクリエイティブの実験場「内田ビルコンプレックス」を企画・運営しており、全国のリノベーションムーブメントの先駆的な役割を担った。ロゴデザインは東泉一郎。

#### 15『Creative Hub 131』の3階の『社員食堂Lab.』での企画の様子。(2011)

『Creative Hub 131』の3階の『社員食堂Lab.』での企画

OrNamenTTokYo(装飾東京)の様子。OrNamenTTokYoではヨーロッパ、東京を拠点に国際的な視野で芸術活動を行っている様々なアーティスト、建築家そしてセオリスト達が集った。企画は、Art Autonomy Network 理事長 嘉藤笑子。Creative Hub 131エグゼクティブディレクターとして実施。

#### 16『PUBLICUS x Nihonbashi』の全景。(2013)

2013年、日本橋大伝馬町にある地上6F、地下1Fの約750平米のビルをリノベーションし、新たなパブリックの実験場を目指すPUBLICUS x Nihonbashi(パブリカス ニホンバシ)プロジェクト。パブリックなマインドを持った異ジャンルの人達の対話と創発を目指した。江戸期よりまちの公共を自身達で行なって来た日本橋の旦那衆の伝統に習い、パブリックの語源PUBLICUSを、PUBLIC US(私たちを公共に)と読み替えた。デザイナーにNOSIGNER 太刀川英輔を起用。左側のエントランスは、Creative Hub 131。(写真 NOSIGNER)

#### 17『NICA』プレオープン落合陽一企画の様子。(2014)

2015年1月にPUBLICUS x NihonbashiのB1Fに開館したNICA(ニカ):Nihonbashi Institute of Contemporary Artsは、世界発信に向けた実験的なラボラトリーとして、江戸東京の中心地日本橋からアートとクリエイティビティを発信していくことを実践。地域の中にプライベートなパブリックスペース、特にアートスペースを創る事で、新たな地域の文化資源の発見に繋がった。主要メンバーは、新野圭二郎(チーフディレクター)、岡田智博(企画委員)、嘉藤笑子(企画委員)。江戸の一大商業拠点である日本橋大伝馬町に開館した非営利の小さなアートセンターは、創造的都市・東京に向けた、進化するための芸術装置として、芸術を体現する空間を目指し、新たな公共を行うPUBLICUS x Nihonbashiの象徴的スペースとなった。筑波大学准教授・メディアアーティストとして活躍する落合陽一の企画を、プレオープン企画として2014年秋にいち早く実施。若手アーティストにも積極的に門戸を開く。NICA企画委員岡田智博企画。NICAチーフディレクターとして実施。

#### 18 岡崎藝術座/+51 アピアシオン、サンボルハの上演風景。(2015)

岡崎藝術座/+51 アピアシオン、サンボルハを上演。岡崎藝術座主宰の神里雄大は、3年後の2018年に第62回岸田國土戯曲賞を受賞。NICAチーフディレクターとして実施。(写真 岡崎藝術座)

#### 19 国立ロンドン芸術大学3カレッジ学長で写真家のクリス・ウェインライトの個展とトークイベント風景。(2016)

国立ロンドン芸術大学3カレッジ学長(チェルシー/ウィンブルドン/キャンバーウェル・カレッジ・オブ・アート)で写真家のクリス・ウェインライトの個展とトークイベントと、また国立ロンドン芸術大学のオフィシャル特別公開コー

スを開催。NICAチーフディレクターとして実施。

## 20 江戸の市を復活『日本橋くされ市』の風景。(2014)

江戸時代の宝暦年間(1751年-1764年)より続くべつたら市の前身のくされ市を、現代に復活。地域の文化資源を、その土地に連続した形で現代化した。第一回のプロデューサー兼実行委員長。主催べつたら市地域振興会。べつたら市地域振興会メンバー(副会長)として実施。

## 21 日本橋浜町の防災用船着場の規制緩和プロジェクトの風景。(2014)

隅田川沿いにある日本橋浜町の防災用船着場を、一般開放するための規制緩和交渉を、中央区役所土木課と行い結実。纯粹民間の利用としては初の事例となった。行政が占有している都市の中にある未活用空間を、民間に開く事で公共空間(パブリックスペース)とする事例。継続的な使用が模索される。写真 山本恵人(日経BP社)

## 22 『EDO FES in べつたら市 江戸芸術文化祭』

日本橋で宝暦年間より続くべつたら市の風景。(2016)

『EDO FES in べつたら市 江戸芸術文化祭』(2017年より、『EDO FES 江戸芸術文化祭』)日本橋地域のオリンピックに向けた文化プログラムとして、『EDO FES in べつたら市 江戸芸術文化祭』を実施。内容は日本橋の老舗の体験プログラム、日本橋街歩き、江戸の街をVRで再現などの企画を実行。地域の文化資源を様々な形式により体験が出来る様にプログラム化。企画・制作・実施を担当。写真は、江戸時代の宝暦年間(1751年-1764年)より続くべつたら市で、地域の市やお祭りを、企画に取り入れる形で実施。『EDO FES 江戸芸術文化祭』が実績となり『日本博 in 日本橋』は開催された。EDO-FES実行委員会委員として実施。

主催:EDO-FES実行委員会

協力:日本橋恵比寿講べつたら市保存会、株式会社伊場仙、

株式会社小津商店、華硝

後援:日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会

(写真 高木俊幸)

## 23 『EDO FES in べつたら市 江戸芸術文化祭』日本橋街ツアーガイド

「江戸のメインストリート本町通りを歩く」の様子。(2016)

江戸のメインストリート本町通りを歩く事で、江戸東京の町が、どの様に始まり、どの様に形成されたかを探る。写真は辰野金吾設計の日本銀行本館(旧金座)と本町通りを案内する様子。(写真 高木俊幸)

## 24 『EDO FES in べつたら市 江戸芸術文化祭』バイリンガル対応の

江戸切子体験プログラムの様子。(2016)

江戸切子発祥の地の日本橋にて、バイリンガル対応の江戸切子のカット体験ワークショップを開催。(写真 高木俊幸)

## 25 『世界同時共鳴プロジェクト 2016年東京オリンピック開会式・閉会式プランCG』(2007)

2016年東京オリンピック開会式・閉会式プラン。世界遺産に登録されている教会や寺院の鐘を中心に、宗教や人種や国境を超えて数百、数千個の鐘を一斉に鳴らし、地球を共鳴の音で響かせるという開会式・閉会

式プラン。このCGは当時計画されていたオリンピックスタジアムと、世界中の教会や寺院をリアルタイムで音と映像で繋いで、共鳴する様子を表す。スタジアムの中では、同時に8万人の人々と、世界中の人々が共鳴していくというものである。このプランは、07年に東京都知事や、オリンピック基本構想懇談会委員長の前で、プレゼンテーションをして称賛された。「公共創造」を行う上で、世界や人類の未来へのヴィジョンは「公共的インフラ」と考える。

## 26 『世界同時共鳴プロジェクト』(2009)

(ワールドハーモナイズプロジェクト)

パフォーマンス風景 国連大学ビル 青山、東京

2009年6月20日20時 2016年東京オリンピック開会式・閉会式プランを元に、初めて現実の場所で行ったパフォーマンス。このプロジェクトのビジョンに共感して下さった方たちと、持ち寄った鐘を鳴らして、このプロジェクトのキックオフを行った。(写真 高木俊幸)

## 27・28 『月の先のもと向こうへ』プロポーザルモデル (2008)

英国ロンドンにあるテートモダンのエントランスタワーピンホール用に考案されたプラン。組まれた構造体の長さは約125mある。階段で地上から、天井を突き破って、遙か天の方向に向かって歩く事が出来る計画。天と地の間を往来出来るインスタレーションプラン。(写真 尾崎誠)

## 29 『全人類対話場』プロポーザルモデル (2012)

森に囲まれた山の中に、大鏡を浮かべて、恒久の人類対話の場所を創るプロジェクトのプロポーザルプラン。大鏡の上に同じく鏡で出来た椅子が並べられている。「この場所は、人類に必要な対話を、常に待ち続ける」このプロジェクトのプロポーザルは、ポストパンデミックの時代にアップデートされ『森の中の対話場』として21年秋に完成予定。

## 30 『全人類対話場』招待者リスト (2011)

「人類の未来は、人類に託されている」2011年現在、存命している世界中の政治家、思想家、芸術家、宗教家、科学者、学者、事業家などを、招待者候補として挙げた作品。世界の問題は、人類の叡智をもって解決出来るという願いを込めたプロジェクト。